

R15指定

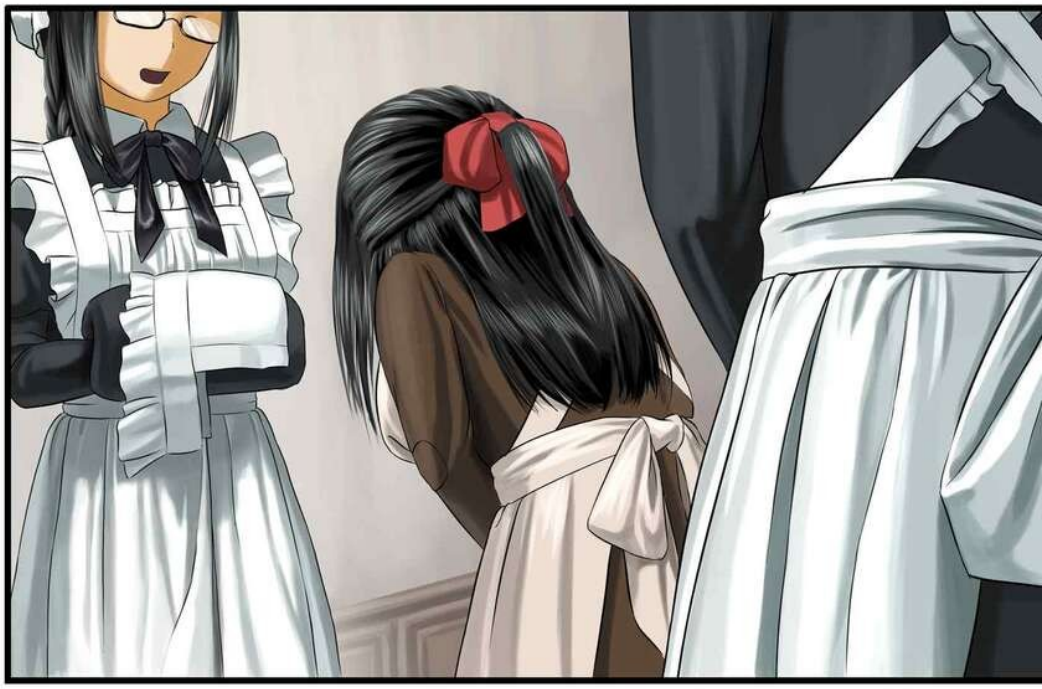
伊藤達哉

メイデン・ヴォヤージュ

M A I D E N V O Y A G E

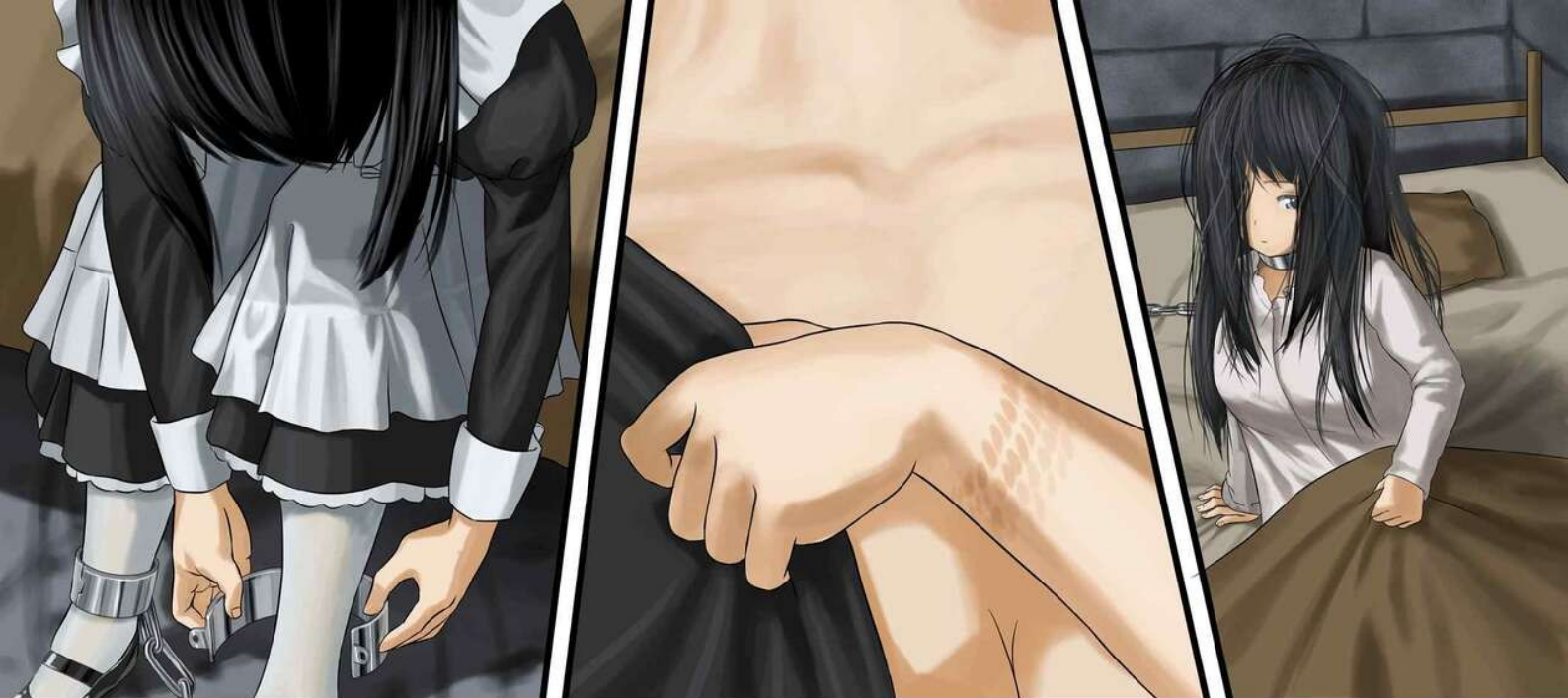














女中隷属契約書































おはんです



fleda伊藤 編集後記のその先へ

第二回

君のムネで泣かせてくれよ

～あの人はいない～

新小岩のスヌメ

ベッドタウンとして開発が進むニュータウン橋本、リニアが来るとか来ないとかで盛り上がる蒲田、そのような都市開発と無縁の関係にある新小岩が現在土地価格急上昇中だ。原因はあの超有名繁華イラストレーターフレダ伊藤氏が住んでいることに尽きるだろう。数年前、フレダ氏は多摩美術大学を卒業し、次の新天地として新小岩を選んだ。彼が引っ越した築四十年の木造オンボロアパートは月四万四千から九十八万円に上昇した。彼のブランド力にはただただ驚愕するばかりである。今回はそんなノリにノッてるフレダ伊藤氏に突撃インタビューを行った。

―そもそもなぜ新小岩に？

「んーそうだね。下町感っていうのかな。いや、下町にもなりきれないこの雑多とした感じ、かな(笑)」

―下町感ですか

「そ、いいよね。ゲロまみれの週末のプラットホームとか」

―なるほど。何かこの土地に対して影響を与えてるな、と感じる出来事はありましたか？

「勿論！引っ越してきて直ぐに区長さんから新小岩のエンブレムをデザインしてくれ！ってさ(笑)まいつちやうよね。」

―へえそれはすごいですね

「んでね。街中でも色んな人に声かけられちゃってね。女子高生なんて縛ってくれ縛ってってくれて」

―そーなんですかすごいですね今回はお忙しい中有難うございました。

どこまでも破天荒でオープンなフレダ伊藤氏。彼のそんなパーソナリティが人々を引き付けているのだろうか。皆さんもいかがだろうか。新小岩。



上記のエンブレムはフレダ伊藤氏がデザインした新小岩のシンボルマーク。中央の図形が新小岩駅を高速で通過する成田エクスピストを、周りの幾何図形はそれに吹き飛ばされる人々をイメージしている。

天声豚語

「金がなければ飯もろくに食えない。金に洗脳、支配されたこんなクソみてえな現代社会とはおさらばだ！」

彼は週末の新小岩駅ホームにまき散らされたゲロの如く世の中への不満をその口から吐き出すと羊を片手に奥多摩へと向かった。彼は言う。

「これは現代社会に対するの反逆、革命。俺はレジスタンスだ！」

一糸纏わぬ姿で自ら狩りをし、喰らう。彼は生活スタイルを原始人のそれへと退化させたのである。

だが待ってほしい。偉人達の肖像画が描かれた紙切れで服を纏い、肉を喰らい、住家に住まう軟弱極まりない現代人に対し、自ら食を狩る術を身につけた彼のスタイルを退化と呼べるのだろうか？

否！否！……否である！……！
これは紛うことなき進化である！そう、彼は人類の進化のパラダイムシフトを起こした歴史的偉人なのだ！
この生活スタイルがこれから全世界でスタンダードとなっていく可能性は否めない。

「今後数十年以内に世の中の生活様式が俺に沿い、そして全世界の紙幣に俺の肖像画が描かれることになる。間違いない」

彼はそう断言した。

たまたまし本当にこの生活スタイルが浸透すれば紙幣というシステムは存在しなくなるのだが……



← 次ページ、ジュリー・アッパーフィールド氏が怪文書と共にゲストイラストを送ってくれた!! チェケラッ!!

言葉にするだけでも恐ろしいがしかし、寄る
辺なき者たちを縛り上げるかの演説はいまだ
に有効で、後を追えば追うだけ尻尾を掴まれ
た気分になるのは何故か。

都市から断続的に詰問され体軀を強張らせる
のもしようがなからう、と、思っていたら向
こう側には自由に積み上げられた骸山。

かくして悪魔は混乱の言語を使い、天使はそ
れを咀嚼することもなく罵り嘲笑う。
寒空の下、要求に応え続ける先陣をよそに、
与えられたリテラシーと裏腹な彼らにこそ記
号による希望と、そしてキルヒャーの不滅を
見たのだ。





著者 伊藤達哉

pixiv <http://www.pixiv.net/member.php?id=7968>

twitter fleda_ito

mail tyobitatu@hotmail.co.jp

絵の仕事、被縛体、お待ちしております。

印刷 株式会社グラフィック

第1版 2015年12月31日

※この物語はフィクションです

